

まち歩きマップ 1

阪神地域最高峰 大野山岩めぐり

ルートガイド

- ⑤ 山頂駐車場
100m
2分
- ① 猪名川天文台
150m
3分
- ② 日光寺跡
350m
5分
- ③ 猪名川の源流
370m
6分
- ④ 展望ポイント
100m
2分
- ⑤ 岩めぐりコース
2700m
120分

コース周遊
3.5km
2時間30分



大野山岩めぐり コースの見どころ



おおやさん おおや 大野山・大野アルプスランド

丹波高地に属し、猪名川が流れ出す阪神地域最高峰（標高753m）。多紀連山、大阪市内、瀬戸内海まで見渡すことができる360度のパノラマは絶景です。また、山頂一帯は大野アルプスランドとして整備され、天文台やキャンプ場、岩めぐりコースなどの大自然を満喫することができます。

7月初旬には、大野山の山開きのイベントとして「あじさいまつり」が開催されます。山頂付近に約50種、約16,000株のアジサイが咲き誇り、空とアジサイの2つの「青」が溶け合う光景は、訪れる人々を魅了します。

①猪名川天文台 Tel072-769-0770 定休日：月・火・水曜日

開館時間：午後1:30～9:30 料金：高校生以上200円、中学生以下は無料
2002年4月にオープン。ドーム内には口径50cmフオーク式反射望遠鏡があり、土星の輪や火星の模様はもちろん、肉眼ではとても見えない15等星まで見ることができます。また、昼間や雨天時でも、デジタルプラネタリウムを楽しめます。

その他にも、夏には「いながわ星まつり」が開催されるほか、年間を通して様々な星の観察会が実施されています。



②大野山日光寺跡（キャンプ場・あじさい園）

大野山は古文書「大野山日光寺開山実記」に山岳寺院「日光寺」が戦国時代まであったと書かれていることから、山岳信仰（修験）の場であったと考えられます。また神亀3年（726）、聖武天皇の命で大野山に登った行基ぎょうきの前に、三寸七分の地藏尊像しんきが現れたことにより一寺を建て、また天長元年（824）、淳和天皇から大野山日光寺の勅号を賜り、本堂他28坊を誇っていたが、のちに兵火にかかり麓の杉生に移ったとあります。

現在の跡地には建物の礎石が残されており、その周辺は、キャンプ場やあじさい園として利用されています。



③猪名川の源流

一級河川「猪名川」は淀川水系に属し、ここ大野山を水源地としています。本町の母なる川として、町内を南北に貫き、川西市、池田市、伊丹市、豊中市、尼崎市を経て、神崎川に合流した後、大阪湾に流れ込みます。猪名川の本流（幹川）の長さは約43.2km。名前の



由来は、天平3年（731）に書かれた住吉大社神代記に説話が載っており、古くからこの地方に住みついていた山直やまのあたし阿我奈賀あがながという者の名前、「あがなが」がなまったものと書かれています。



④展望ポイント

ここから広がる景色は、北摂里山博物館の1つに選ばれている「柏原の棚田」の風景を山の上から展望することができる絶好の写真ポイントです。

⑤岩めぐりコース（大野山の岩石群・国界石）

今から約8000万年前の白亜紀、この付近には火山（佐曽利カルデラ）がありました。そのため大野山を含む北摂地域の各地には、火山の噴火によってできた岩石が点在しています。この岩めぐりコースでも、火山の噴火によってできた火山岩である「溶結凝灰岩（火山灰が溶けて固まってできた岩石）」や噴火の際の火砕流によって取り込まれた様々な岩石を観察することができます。

また、岩めぐりコースを歩いていると、「界九」のように数字が刻まれた岩が多く見られます。これは「国界石」として国境を表しています。江戸時代の元禄11年（1698）、摂津国川辺郡柏原村十有馬郡小柿村と丹波国多紀郡後川村との間に山境争論が起きました。村境争いであり、摂津国と丹波国の国境争いでもありました。元禄12年（1699）、京都奉行所の裁許により境を明示するため、岩に「界〇〇」の番号を刻みました。この元禄界石は35番まであります。

その他、点在する巨岩の一部は、めずらしい形から、ユニークな名前が付けられています。

